

(2018年 岐阜県公立入試 類似)

(2018年 群馬県公立入試 類似)

(2021年 三重県公立入試 類似)

(2020年 愛媛県公立入試 類似)

(2018年 高知県公立入試 類似)

(2019年 大分県公立入試 類似)

(2019年 大分県公立入試 類似)

(2023年 埼玉県公立入試 類似)

(2017年 奈良県公立入試 類似)

(2025年 滋賀県公立入試 類似)

(2019年 千葉県公立入試 類似)

(2015年 佐賀県公立入試 類似)

(2024年 長崎県公立入試 類似)

(2018年 和歌山県公立入試 類似)

いちごドリルプリント

答え合わせ・解説

問1	答え 3 新潟市	日本一の長さを誇る信濃川の河口という地理的条件を活かし、古くから海運の拠点として発展してきた背景があります。北陸地方（中部地方の日本海側）における中心都市の一つであり、2007年には同地方で初となる政令指定都市に移行しました。金沢市や富山市も北陸地方の主要都市ですが、政令指定都市には指定されていません。
問2	答え 4 雪国の農閑期における安価な労働力を活用できたため	北陸地方などの多雪地域では、冬の間に農作業ができない農閑期が存在します。この期間の農民の労働力を副業として活用することで、都市部に比べて賃金安い（安価な労働力）という利点を生かし、地場産業が成立・発展しました。鯖江市の眼鏡産業も、当初はこのように農家の冬の仕事として広まったものです。現在は、より人件費の安い発展途上国との価格競争が課題となっています。
問3	答え 2 地場産業	特定の地域に根ざし、地域の原材料や技術、労働力を活用して発展した産業を地場産業と呼びます。鯖江市の眼鏡や、燕三条（新潟県）の金属洋食器などがその代表例です。これらは単なる製造業ではなく、地域の文化や歴史と深く結びついており、現在はデザイン性の向上やブランド化による差別化が進められています。
問4	答え 1 扇状地	山地から平地へと川が流れ出す谷口付近には、砂や礫が堆積して扇の形をした「扇状地」が形成されます。扇状地は土の粒が大きく水が地下に浸透しやすいため、水持ちの良さが必要な稲作には向きませんが、水はけの良さが求められる果樹栽培には非常に適しており、山梨県ではこの地形を有効に活用しています。
問5	答え 1 レタスやハクサイなどの高原野菜	長野県は周囲を高い山々に囲まれた内陸県であり、八ヶ岳山麓などの標高が高い地域（高冷地）では、夏の涼しさを好む野菜の栽培が適しています。特にレタス、ハクサイ、キャベツといった野菜は「高原野菜」と呼ばれ、全国的な産地となっています。統計的に平均標高が1位であるという事実は、こうした高冷地農業の基盤となっていることを示しています。
問6	答え 4 全人口のうち65歳以上の人が占める割合	愛知県のような大都市圏は、進学や就職のために他県から若い世代（生産年齢人口）が流入するため、相対的に高齢者の割合が低くなります。これに対し、近隣の長野県や富山県などの地方部では、若者が都市部へ流出する一方で、その地域に留まる高齢者の比重が大きくなるため、高齢化率が高く算出されるという特徴があります。
問7	答え 4 長野市：山々に囲まれた内陸の盆地に位置し、海からの湿った空気が入り込みにくい	長野市は内陸の盆地に位置しており、周囲を高い山々に囲まれています。海からの湿った空気がこれらの山々を越える際に雨や雪として水分を落としてしまうため、盆地内部には湿った空気が届きにくくなります。その結果、太平洋側の静岡市や日本海側の金沢市と比べて、年間を通じて降水量が少ない「中央高地の気候」の特徴を示します。
問8	答え 4 上田市	上田市は長野県に位置する内陸の都市です。周囲を高い山々に囲まれているため、海からの湿った空気が入り込みにくく、年間を通じて降水量が少ない「内陸の気候」の特徴を示します。冬は放射冷却などの影響で冷え込みが厳しく、1月の平均気温が氷点下になることもあります。
問9	答え 4 石川県 ― 金沢市	中部地方において県名と県庁所在地の名称が異なるのは、石川県（金沢市）、愛知県（名古屋市）、山梨県（甲府市）の3県のみです。これら以外の新潟県、富山県、福井県、岐阜県、静岡県、長野県の6県は、すべて県名と県庁所在地の名称が一致しています。試験では、名称が異なる県を正確に暗記しておくことが重要です。
問10	答え 2 陶磁器の成形・焼成技術を発展させ、耐熱性や絶縁性に優れた精密部品を供給している。	瀬戸市の地場産業である陶磁器生産には、原料となる鉱物の配合や、高温で焼き固める高度なノウハウが蓄積されています。これらの伝統技術を科学的に進化させることで、金属よりも熱に強く摩耗しにくいファインセラミックスが生み出されました。これが同じ愛知県内で盛んな自動車工業において、エンジンの点火プラグや排気ガス浄化用センサーなどの重要部品として活用されることで、地域の産業が密接に連携しています。
問11	答え 1 石油化学工業	中京工業地帯は日本最大の出荷額を誇りますが、その内訳は場所ごとに特色があります。内陸部の豊田市を中心とした自動車工業（輸送用機械）と並び、伊勢湾沿いの四日市市では臨海部の立地を活かした石油化学工業が発達しており、重化学工業の重要な拠点となっています。
問12	答え 3 豊田市を中心に自動車産業が集積しており、中京工業地帯の出荷額において大きな割合を占めている。	愛知県は、輸送用機械器具（自動車など）の出荷額が全国シェアの約35.5%を占める日本最大の工業県です。特に豊田市などへの企業集積が、日本一の製造品出荷額を支える中京工業地帯の原動力となっています。一方で、大規模な灌漑施設（豊川用水など）の整備により、渥美半島などで「きく」をはじめとする農業も盛んに行われており、工業・農業ともに全国屈指の規模を誇ります。静岡県は輸送用機械器具2位、沖縄県は「きく」の出荷量2位であり、これらは愛知県に次ぐ順位となっています。
問13	答え 1 冬の豪雪による雪の重みを逃がしやすくするとともに、屋根裏を養蚕の作業スペースとして活用するため	岐阜県の山間部は日本有数の豪雪地帯であり、湿った重い雪が屋根に積もって家屋が倒壊するのを防ぐために、屋根に急な傾斜がつけられました。また、かつてこの地域で盛んだった養蚕（カイコの飼育）を行う場所を確保するため、広い屋根裏空間が作られ、多層構造の住居となっているのが特徴です。これは気候条件と生活の知恵が結びついた文化遺産といえます。
問14	答え 2 越後平野	信濃川が日本海に注ぐ河口付近には、広大な越後平野が広がっています。この平野はかつて地は低く水はけの悪い湿田が多かったのですが、干拓や土地改良、大河津分水路などの治水事業が進められた結果、現在では日本を代表する米の単作地帯となっています。